

【令和三年度 全学校協議会の報告集】

令和3 年度 第3 回学校運営協議会

- 1 質疑受付期間 令和4 年2 月25 日（金曜）～3 月11 日（金曜）
- 2 開催形式 書面記載
- 3 議題等（次第順）
 - （1）令和3 年度 学校経営計画及び学校評価について
 - （2）第2 回授業アンケートの結果・分析
 - （3）学校教育自己診断の結果・分析
 - （4）進路概況（2 月21 日現在）
 - （5）令和4 年度 学校経営計画について
- 4 感想・質問事項等（意見の概要）

・授業アンケート、学校教育自己診断の結果について

この2年間を見ると、タブレット配布等による電子化が多くの場合、良い方向に影響を与えているように感じました。ただ、以前にお話ししたかもしれませんが、それが一過性のものに終わらず、この後にも引き継がれ、実際の教育効果として現れていって欲しいと願っています。その意味では、今後の各種アンケート等の結果がより重要であると考えます。そういう視点で見たとき、11 期生の授業アンケート結果で、予習・復習の数値がこれまでになく高い値になっていることが目を引きました。これについて、何か考えられることがあれば、お聞かせいただければ幸いです。

・令和4 年度学校経営計画について

今回、「3」が新しくなりましたが、タイトルと中身の対応が、少し分かりにくく感じました。

「『チーム教セン』の確立による…」とあるので、このタイトルであれば、その「確立」に相当する具体的内容が（可能なら最初に）含まれていた方が良いと感じます。特に、タイトルの終わりに「（支え合い高め合う組織の実現）」とあるので、中身との間に隔たりがあるように感じました。タイトルから「確立」を省けば、違和感はなくなるかもしれません。ただ、「確立」に重点を置きたいということであれば、中身の方、少し工夫した方が良いかもしれません。

・学校教育自己診断における生徒肯定的意見について

学校施設・設備の満足（49.3%）→電子黒板機能搭載プロジェクターの導入が影響したのかと思います。建物自体の老朽化などは致し方ないですが、ここが向上すればポイントも上がるかと。ただ、学びの場としてどこまで影響するのか？ここが本質にな

ると思います。

- ・実験・観察・実習（53.9%）、発表する機会がある（81.6%）

→電子黒板機能搭載プロジェクターの導入で視覚的認識が深まっていくかと思いません。視覚的認識授業とそれに伴う自己意見発表の時間的バランスのつり合いが今後の課題になるかと思いません。

- ・保護者意見に関して

PTA 活動や学校行事への参加、PTA 活動の活発さのポイントが下がったことはコロナ禍で様々な制限があった為、仕方ないと思います。ポイントが下がった部分で、10 期生11 期生保護者の割合がどの程度か分かりませんが、そのように感じている方には是非PTA 役員や委員に立候補（参加）頂きたいと思います。今後、コロナ禍でも活発な活動があったと感じて頂けるような取り組みを考えたいと思います。

- ・その他

学校運営協議会からの意見として、地域や社会で起こっている事柄への関心に関してですが、近隣で起こっている事を授業のはじめや終わり、学活等で生徒へ知っているかどうかをヒアリングするのも良いかと思いません。自分の意見を発表できるのは自主性育成に繋がるかと思いません。私自身第2 回協議会に参加させていただきましたが、教職員内での勉強会なども活発に行われているように感じました。教職員平均年齢も生徒達と近づいて来ているのなら、担任以外の先生と相談が出来るなど、多角的視点で生徒を見守ってくれているように思います。

- ・学校教育自己診断、及び令和4 年度学校経営計画について、感想と気づきをお伝えしておきます。まず、学校教育自己診断について、昨年度と比較して概ね肯定的評価が増加しているのはとても良いことで、特に生徒の「この学校には、他人に自慢できることがある」の評価が13.2%も向上しているのは特筆すべきことでしょう。また、保護者の否定的な評価の増加が見られた「この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」も、現在のコロナ禍によることも大きな原因かもしれません。

- ・令和4 年度学校経営計画について、説明的な表現が付け加えられていることから、目標と手段の一致が明確になっているのは良いと思われれます。以上で、令和4 年度学校経営計画を承認したいと思います。

令和3 年度 第2回学校運営協議会

1 開催日時 令和3年12月17日（金曜）15時00分～16時30分

2 開催会場 本校会議室

3 出席者委員（5名）、校長・教頭・指導教諭・進路指導主事・生徒指導主事・教育センター指導主事等（オブザーバー）

4 議題等（次第順）

（1）令和4年度カリキュラムについて

（2）学校教育計画の進捗について

- ・授業研究委員会の取組報告
- ・R3年度第1回授業アンケート結果
- ・現在の進路状況について

（3）学校教育自己診断の結果・分析

5 感想・質問事項等（意見の概要）

・ICTを活用した教育では、Googleのコンテンツを使用して、同時双方向の学習環境を整えていることだが、確立した取り組みがあれば教えて欲しい。

・情報が氾濫している社会の中で、そのような情報をどのように取捨選別し使うことができるかが問われている。また、他人の意見を聞きつつ、自分の意見をどう言えるか、といった観点も取り入れ教育して欲しい。

・探究ナビや教科学習のどちらが先ということではないが、育成すべき力として、発信する力と聞く力を育成することも肝心になってくると思う。

・観点別学習評価については、試行実施を終えたとあるが、探究ナビのような思考力・判断力・表現力等をしっかりと評価し、更に学びに行く力や姿をもきっちり評価することが理想だが、大変難しい要素もある。この点について、観点別学習状況評価自体を何のために実施するかを教職員で共通の理解が出来できているのか。

・基礎的学力を身に付けるのも大事だが、社会に出る上での人として基本的な生活習慣なども身につけて欲しいと感じている。学校にはぜひ、そんな部分も大事にして欲しい。

・校則などルールも必要と思うが、高校時代に自主性の範囲を広げ、身につけて欲しい。そんな観点も学校側には意識して、自主性を広げる教育活動を実践して欲しい。

・高校生活は人間関係を身につけるには、大事な時だと思う。クラブ活動など環境に恵まれると学習面も向上すると思う。

・ネット社会の中で、主体的に言葉を交わす教育活動を実践していると思うので、是非継続してその部分を大切に持って行って欲しい。

・現在は18歳から選挙権がある。学校では、社会で起きている事象をどう関心を持た

しているのか。判断力が問われるが、主権者教育をどのようにしているか。

・情報の入手の仕方は容易になっているが、例えば、ワクチン接種の賛否ある中、大人も右往左往している実態がある。氾濫する情報の中で、その情報を取捨選択し答えを出していくかが問題。時には人の意見を聞きつつ、自分の意見を主張するなど、学習の中で、互いを認める教育をして欲しい。

・一つのニュースで多様な見方ができる。ある事象を見てすぐに価値判断ができるのは、価値観を持っているから、発信力・聞く力が高いとのいうのは良いことだと思う。

令和3 年度 第1回学校運営協議会

1 質疑受付期間 令和3年7月30日（金曜）～8月6日（金曜）

2 開催形式 書面記載

3 議題等（次第順）

（1）令和3年度 学校経営計画について

（2）教育課程委員会・教務部 令和4年度教育課程と教科書選定について

（3）授業研究委員会 本年度の目標と計画について

（4）進路指導部 年間進路計画表・昨年度の進路状況について

4 感想・質問事項等（意見の概要）

（1）感想

・豊かな感性の育成について、家庭内教育も必要だと思います。家庭内でも先生に相談するような会話が必要と思うので、思春期や反抗期などの理由があっても保護者の協力や理解が必要だと思います。

・確かな学力の育成について、学びを活かそうとする意欲の向上の54.2%はタブレット導入による授業内容での改善を期待したいです。コロナ禍で先生方との交流が持ちづらいのですが、自分の息子にとっては良い学校に行っていると思います。

・今回は、特に「ベネッセ・学校オリジナル質問」のところを、少し時間をかけて見させて頂きました。（4）（5）（6）あたりの回答結果に、探究ナビ等の活動を通した生徒の成長が垣間見えるように感じました。また、

（13）（14）（15）（16）（17）（19）（20）の回答結果から、それぞれの強化の生徒の興味関心を育てることができているように感じられ、先生方の教育の成果が現れているように感じました。それから、これは以前にお伝えしたことがあったかも知れませんが、個人的には、（3）で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答する生徒が学年進

行とともにもう少し増えてくれたらと願っています。社会とのつながりをうまく学びのモチベーションにつなげていければ理想的ですね。時間の制約などもあって、なかなか難しいかも知れませんが。

・第1回学校運営協議会について、資料を送付して頂き有難うございました。いつもながらデータが豊富にあり、カリキュラムセンター校としての役割を果たすべく、努力されている姿がよく分かります。学校経営計画については異論なく、この方向で進めて頂ければと思います。一方、校内研修のアンケートを見せて頂き、気になるのは「観点別学習状況評価」について先生方に相当な負担、あるいは戸惑いがあるのではないかということです。第2回の校内研修でも取り上げられていたようですが、観点別学習状況評価はどの学校でも苦勞されているようです。前回の会議でもお話ししたかもしれませんが、私が高校から校内研修の講師を頼まれるときのトピックは概ねこのテーマです。大学でもシラバス作成はチェックも厳しく骨の折れる作業です。しかし、シラバス表を上から順に埋めていくプロセスを通して授業づくりができます。シラバス表を上から順にいうと、まず大学が求める学生像と学部（＝高校では教科）の教育目標がすでに記載されています。それらに合致するように、担当科目の到達目標をすべて「～できる」という表現で3～4つ記載します。ほとんどは「～を説明できるや議論できる」で終わります。ということは、この時点で、すでに「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の観点は完成しています。また、議論できる、という項目には「主体的に学習に取り組む力」の観点から入ります。その次に、それぞれの到達目標を評価する方法と割合（点数）を記載します。つまり、目標に準拠した評価となります。最後に、それぞれの到達目標と評価方法を含めた授業内容を回ごとに記載します。大学教員は、観点別学習状況評価という言葉はあまり知りません。ただ、シラバスを作る過程で自然と観点別学習状況評価に基づく授業づくりを行っています。最も大切なのは、到達目標（何ができるようになるのか＝can do list）が明確になっているか、ということです。あとは論理的思考を使えば、評価と指導内容は自然に出てきます。今、どの学校でも観点別学習状況評価という言葉が、一人歩きをして先生方に重くのしかかっているように思われます。この辺りが経験として理解ができれば、負担は相当軽くなると思います。

（2）質問・その他

・今年度の「中期目標」が、昨年度の「中期的目標」から構成がかなり変わっています。中の数値目標から察するに、「中期的」とは、3年程度を目安にしたものと考えてよろしいでしょうか。「中期的目標」は、毎年大きく変わるようなものではないと思うので、今後3年程度は、今回の目標に準じた形になるのかなと思ったので、その点だけ、確認させていただければと思います。なお、「中期的目標」の中身については、全体の構成を組み替えることで、大項目1→2→3の繋がりが見えるようになったように感じました。